



「リハビリテーション医学全書 10 作業療法各論」

原 武 郎・鈴 木 明 子 編

リハビリテーション医学全書がシリーズものの叢書として発刊され、6年目にしようやく本書「作業療法各論」が出版の運びとなった。われわれセラピストにとって待ち望んでいた著書といっても過言ではない。

本書は経験豊かな諸先生方により、身体障害者に対する作業療法、身体障害児に対する作業療法、内科的疾患に対する作業療法、精神障害に対する作業療法の各分野をまとめあげられた書である。

内容においても身体障害者の作業療法では、現在、リハビリテーション・サービスの中心的存在ともいわれる脳血管障害による片麻痺をはじめ、脊損、リウマチ、切断などに対する評価、治療プログラム、治療内容、職業前訓練、アフターケアの問題まで詳細に記載され、即日応用できるものと思われる。

身体障害児の作業療法では脳性麻痺をはじめ、進行性筋ジストロフィー症、先天性奇形・欠損などに対して、知的発達、身体的発達を加味しながら、遊びを取り入れ

ADL を自立させるべく適切な指導が述べられており、直ちに実際面に役立つものと思われる。内科的疾患の作業療法では、心疾患、呼吸器系疾患などに対して、リスク管理を重点的に、心理的、精神的な働きかけが述べられている。

精神障害の作業療法では、経験に基づいた評価、治療法、セラピストの基本的姿勢など、細かい面まで網羅されている。なかでも、はかりしれない人間味の深さが感じられ、セラピストとして謙虚に受けとめるものがある。今日の作業療法の現場では、それぞれ、特定の疾患に片寄りがちな面もあるが（施設など）本書の出版を機に知識を再認識し、また、セラピストとしての自己を見直すためにも、是非一読下さることを心から願うものである。

(A 5, 頁 538, 医歯薬出版, ¥ 6800, 1978)

(宮城県拓杏園 作業療法士 秋藤 一夫)